

池田 良徳 (大阪府立大学 名誉教授 客員教授) の

新クルーズ学

51

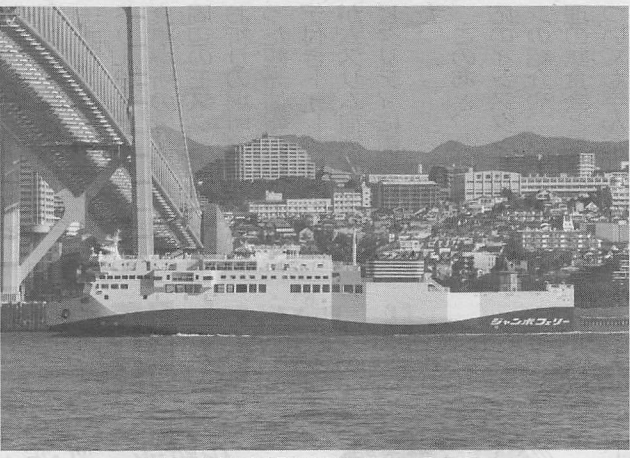
かつて関西と西国の間にはたくさんフェリーが走っていました。しかし、その多くは瀬戸大橋と明石海峡大橋の開通によつて姿を消しました。風前の灯火となったものの見事によみがえった航路もあります。それがジャンボフェリーの神戸ー高松航路です。

関西汽船と加藤汽船がジャンボフェリーの愛称で4隻のカーフェリーを投入して、片道約4時間の航海時間でしたが、明石海峡大橋ができ、高速バスだと2時間、自家用車だと2時間強の所要時間に短縮されました。この時点で関西汽船

は事業から撤退、加藤汽船は航路を維持しましたが、経営状態は悪化してきました。そこで、新生ジャンボフェリーによる再生を図ります。途中の小豆島に寄港して新たな需要を取り込むことにしましたが、これによって神戸ー高松間の所要時間は4時間半になり、さらに30分あまりも長くなりました。所要時間で勝てないなら、料金で勝つしかありません。ここでニーズに合わせた弾力的な料金設定をします。

新造船「あおい」登場

神戸ー小豆島ー高松
ジャンボフェリー



明石海峡大橋の下を通過して小豆島、高松に向かう「あおい」

神戸ー高松間の高速道路の料金は約9千円でETCを使っても5680円です。これに対抗すべくジャンボフェリーは4990円として、ネット価格では4740円とします。一方、小豆島は橋が

かかつておらず、競争するのは他のフェリーとなるため料金を下げる必要はありません。このようなわけで遠い高松までの方が運賃が安いという、ちよつと不思議な料金体系になっています。こつした戦略的な価格設定が利用者には受け入れられ、ジャンボフェリーは33年ぶりの新造船の建造を実現しました。それが「あおい」です。リクライニングシート席は、高速バスよりも快適で、なんととっても広い船内を自由に動き回ることができます。船ならではの快適性を徹底的に追求した船となっています。名物のうどんコーナーもあり、1杯100円のコヒーもあります。そしてオープンエアの甲板が広々としていて、海風を浴びながらのクルーズ気分を満喫すること

が期待されています。現在、「あおい」は1日2往復していますが、クルーズ気分を味わうなら神戸発の朝便がお勧めです。出港すると明石海峡大橋の下を通過し、播磨灘を南下して小豆島の坂手港に寄港し、壮大な屋島を眺めながら高松港に到着します。この間は4時間半の瀬戸内海の航海は素晴らしいの一言です。また上り便では高松港深夜1時発の夜行便にも「あおい」が就航しており、早朝に神戸に到着するので朝から活動するのには便利です。後は、少しでも早く姉妹船が新造されて、全4往復便で快適な船旅が楽しめるようになることを期待しています。